



7日(金)に、南下浦小学校の5年生(午前)、6年生(午後)が、シーボニアの海洋塾に参加しました。

最初に、開講式があり、海洋冒険家白石康次郎さんのビデオによる「海を楽しんでください/そのためにはインストラクターの指示に従ってください/ルールは、楽しむためにあるんです」というメッセージがありました。

その後、子どもたちは、ヨット、シーカヤック、電気モーターボートの3グループに分かれて体験して行きました。6年生は、2度目ということで、二人乗りのヨット(ディンギー)で、うねりのある海を乗り切っていきます。2人乗りのシーカヤックも、息を合わせてかなりのスピードで進んでいました。環境にやさしい電気で動くモーターボートは、

東京海洋大学と共同で研究しているものだそうです。

子どもたちは、濡れるのもいとわず、果敢にチャレンジして、充実した1日になったようです。

市内の多くの小学校が、シーボニアの海洋塾にお世話になっています。大変ありがたいことです。



8日(土)、旭小学校の秋祭りが行われ、子どもたちが、タッチプールで楽しみました。

本研究所で配付したプールに、約1000Lの海水を入れ、中には、巨大なイセエビ、ハマチ、フグなど多くの魚が泳いでおり、子どもたちは大喜びでした。保護者の皆さんも集まって大賑わいでした。

海水や魚は、すべて保護者の皆さんが用意してくれました。地域全体で、海洋教育を盛り上げてくれています。

海水や魚は、すべて保護者の皆さんが用意してくれました。地域全体で、海洋教育



10日(月)の午後、初声小学校の2年生が、観音崎自然博物館の山田学芸部長の授業を受けました。

最初に、自分たちが海で捕まえてきた生き物の写真を見て、自分たちが図鑑で調べて考えた名前の答え合わせをしました。正解の時は、「やった」「合ってた」などの歓声が上がりました。

次に、子どもたちが事前に考えていた質問コーナーになり、「カニは三浦に何種類くらいいますか」「エサは何ですか」などの質問が次々に出ました。

「取ってきた生き物は、どういう場所で飼えばいいんですか」という質問に、山田先生は「その生き物をどんな場所でとったかをよく覚えておいて、その場所に近い環境で飼うのが一番いい」とのこと。磯観察の大事な視点を教えていただきました。2年生は、25日(火)に、矢作海岸に出かけます。



授業を行った学習室には、本研究所が配布した海洋教育関連の物品が置かれたコーナーができていました。ちなみに、山田先生の今日のTシャツはカニでした。

(文責 事務局長 渋谷)

